

(株)アーレスティと協働でクリとコナラを植樹

令和6年2月8日(日)。この日は「岩屋緑地に親しむ会」と(株)アーレスティとの年5回計画されている貴重な協働の日(残念ながら10月は雨で中止された)。この日は好天に恵まれ会員15名とアーレスティ10名が参加してクリとコナラの植樹を行った。場所はじゃぶじゃぶ池上のコナラ林。上の散策路寄りに大きなカクレミノがあったがこれを伐って空き地になったこと、西側で一昨年と昨年の11月にはコナラを間伐してシイタケ菌打ちの原木に使用したことから捕植の必要が出て来た。



こんなことから上の空き地ではドングリの仲間で実がなるのが早いクリの木をアーレスティの皆さんの手で植樹して貰い、その後は大切に育て、収穫できるまで楽しみながら見守って貰おうと言うのが狙い。今回植えるのはクリの苗木15本とコナラの苗木20本。これらの苗木は「ドングリの森を守る会」から提供して貰ったもの。上のクリの植樹から作業を始めた。主に散策路に沿って横1列に、

余りは西側に。植える位置は会員が竹杭を打って印にし、そこに穴を掘って苗木を植え付ける。穴は鍬と剣スコップを使って大きめに掘った。しかし慣れない穴掘りにはみんな苦勞をした。掘れた穴に苗木を植え、掘り起こした土を戻し、近くのチップの山からチップを持って来て苗木のまわりを被せた。竹杭と苗木には目印となるピンクのテープを巻き傷めないように注意の喚起をした。こんな要領で上のクリ、西のコナラの植樹を昼までに終えた。

この協働が始まった当初は終了後に豚汁やきのこ汁、お汁粉を作ったりして楽しんだが、何時からか作業のみとなり、しかも枯木集めや枯木の運び出しなどが多く、楽しみや働き甲斐を感じる事が少なくなり、参加者には物足りなさや不満が溜まっているとか。サクラやコナラ、クリを植え育てることでその成長を楽しみ、タケノコやシイタケ栽培では収穫が楽しめる。会としても楽しんで活動して貰えるよう努力はしているものの、アーレスティさんからも前向きな提案が出てくることを期待したい。【写真左：クリの苗木を植える。写真右：コナラの苗木を植える】



再開された「年度末交流会」

令和6年3月31日(日)、本年度最後の活動日にコロナで一時的に中断されていた年度末交流会が久しぶりに開催された。

そもそもこの催しは「我々の会は毎回まじめな力仕事ばかり、桜も見頃となるので、たまには男女会員が顔を合わせ楽しくやろう」と。もう一つの動機は多米小から五平餅づくり指導のお礼に収穫されたお米を頂いたことにある。これを使って炊き出し訓練も兼ね混ぜご飯を作ろう。パーベキューも、草木の新芽の天ぷらもとなり、それならこの1年お世話になった地元小学校や公共施設へも声を掛けてと話が広がった。そして平成20(2008)年3月30日(日)「お花見会」が開催された。集まった会員は32名、お客様が15名の総勢47名。何時もは10名程度の人数で活動しているのにこの賑わい、花のせいかな団子のせいかな。大盛況で初回を終えた。

以後、「お楽しみ会」「年度末交流会」と名前が変わり、メニューもさまざま。平成23年は東日本大震災で自粛。平成31年を最後にコロナで中止となってしまった。さて今日の交流会、早目に作業を終了し、休憩所に戻って開会。森北副会長が今年度



1年の労をねぎらう挨拶をし、柴田副会長の乾杯の音頭で会食が始まった。会が用意したのは厚切りシヤケ弁当とオードブル盛り合わせ、即席味噌汁で、このほか今日のために女性会員が手作りのデザートや総菜(クルミパン・マーマレード付、フルーツポンチ、野菜サラダ、カステラ、ザーサイ、桜餅)を持ってきて下さった。会食での話題は桜開花の話。新さくら広場にはジンダイアケボノが濃いピンク色の花をつけていてとても綺麗。岩屋緑地でも以前は提灯をぶら下げて桜祭りが行われていた。サクラが大きくなり桜祭りが復活することを願うなど。会食は1時間ほどで終わり、食べきれない量だったのでほとんどの人が持ち帰った。【写真上：休憩所でテーブルを囲んで会食、写真下：今日の交流会に用意されたお食事】

